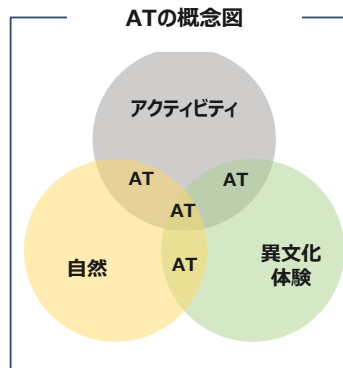


参加者の主な意見	事務局整理案
<p>1. スルーガイドに求められる技術等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低限の要件 <ul style="list-style-type: none"> ① 通訳案内士の資格＋実務経験あり ② 旅程管理主任者資格＋添乗経験あり ・求められる技術等：アクティビティの事前案内、双方向のストーリーテリング、顧客の様子を見る力、地域やアクティビティガイドとの連携・役割分担、端的に的確に通訳する力、グループマネジメント、エクスペクテーション（期待値）コントロール 等 ・感動の共有が重要 ・北海道アウトドアガイド資格検定取得には抵抗感 <p>2. 実査のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない土地で試験は厳しい ・フレキシビリティの発揮には、地域との連携が必要（現地ガイドとの事前打合せ・下調べ要） ・ATGSの動画による講座等に加え、実地でお客様の接し方を見る必要 ・回数を要件に入れていく必要 <p>3. スルーガイドチェックシート（項目等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目が多く、評価者・被評価者ともに大変 ・スルーガイドがやるべきことの参考になる。 <p>4. 連携する新分野について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SUP：インストラクター資格のみ存在（（一社）日本SUP指導者協会(SIJ)の資格） ・JCGAのサイクリングガイドの要件を確認 ・ガイド検定取得の労力等に見合うメリットが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○ WG2の議論に加え、左記意見も踏まえ整理 ○試験の実施については多く課題がみられるため、研修の受講（座学＋実地）により確認する方向で整理 【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・座学：ツアー催行の基礎知識やスルーガイドの役割 ・実地：旅行会社、地域、アクティビティガイドとの連携 ○資格取得や座学で補えるものは補いつつ、現場でチェックする項目の絞込み必要【再掲】 ○チェックシート(完全版)は、座学研修で活用【再掲】 ○SUPの取扱い：検討継続 ○メリット：国内外の旅行会社へのPR強化や旅行会社等の評価制度を検討

1 アドベンチャートラベル (AT) とは

【定義】

アクティビティ、自然、異文化体験の3要素のうち、2つ以上を含む旅行形態



【AT市場の状況】

- 市場規模：約70兆円超 (ATTAによる)
- 欧米豪富裕層を中心に年々拡大
- AT旅行者の観光消費額は、通常旅行者の約2倍

2 Adventure Travel World Summitについて

- ATの国際的な団体ATTA(Adventure Travel Trade Association)が主催する、**世界最大のATイベント**。
- 2021年の北海道大会は、**初のアジア開催**となる。
- 業界のインフルエンサーが参加**
例) 有名雑誌メディア、写真家、旅行エージェント等

(※) ATTA

世界最大のアドベンチャーツーリズム団体
(本部・米国)
メディア、政府観光局、観光協会、DMO、
ツアーオペレーター、アウトドアメーカーなどで構成され、
約100カ国、1,300会員を擁する。

- 北海道を「ATの適地」として広くPRする絶好の機会
- ATWSで培った人脈・商品造成ノウハウを活かし、AT顧客を道内隅々に送客

3 Adventure Travel World Summit 2023 Hokkaido, Japan 【開催案】

日 程 : 2023年9月11日～14日 (4日間)

開催地 : 北海道

主催者 : アドベンチャートラベル・トレードアソシエーション

参加者 : 55ヶ国以上から約800名

内 容 : プレサミットアドベンチャー、デイオブアドベンチャー、
基調講演、分科会、商談会、メディア交流会、
ポストサミットアドベンチャー 等



【過去の開催地】

2016	アンカレッジ (米)	2020	アデレード (豪) ※中止
2017	サルタ (アルゼンチン)	2021	<u>北海道 (バーチャル)</u>
2018	トスカーナ (伊)	2022	ルガーノ (スイス)
2019	ヨーテボリ (スウェーデン)	2023	<u>北海道 (リアル)</u>

- 北海道アウトドア活動振興条例に基づき、平成14年から北海道が運営
- 「北海道アウトドア講習」、「北海道アウトドア検定」、「北海道アウトドアガイド」、「北海道マスターガイド」の4つで構成

マスターガイド

10年以上継続してアウトドアガイド資格を保有、かつ高度な知識や技術と豊富な経験を有し、かつ指導的な立場にある者

北海道アウトドアガイド

「北海道アウトドア検定」合格、かつ分野別認定試験（筆記・実技）に合格した者

山岳

自然

ラフティ
ング

カヌー

トレイル
ライディング

北海道アウトドア検定合格者

「北海道アウトドア検定（応用分野）」合格し、かつ指定する救命救急講習受講した者

北海道アウトドア講習修了者

「北海道アウトドア講習」受講した者

必須条件

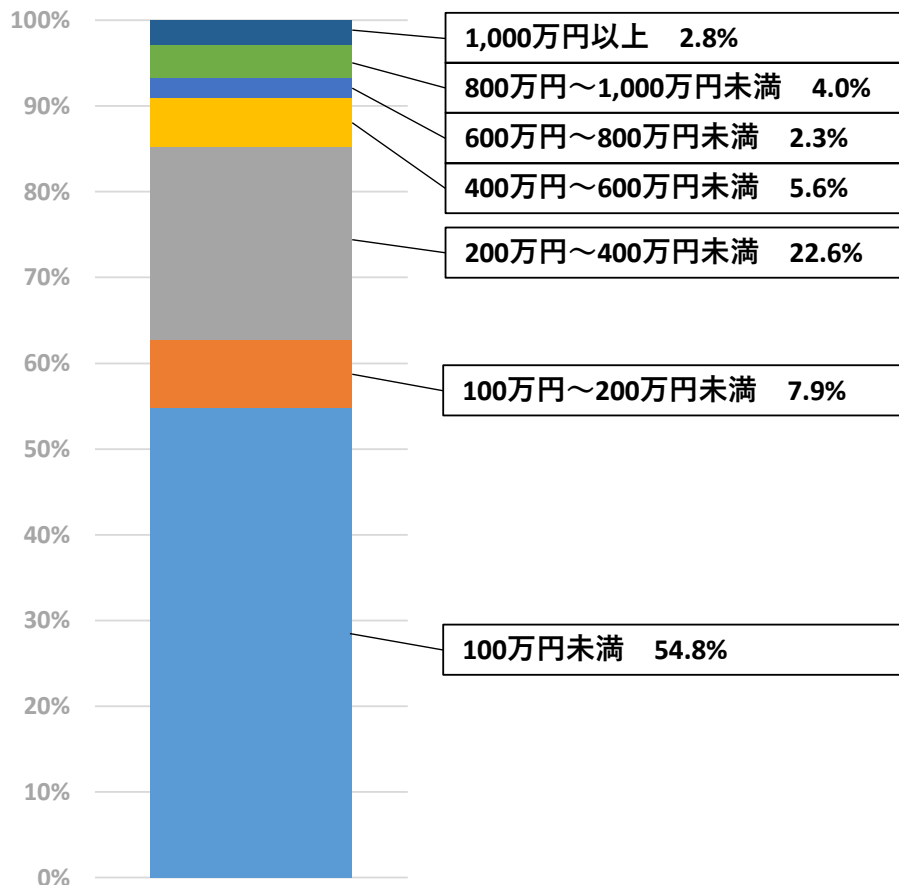
R4.3.31現在

分野	ガイド数	うちマスターガイド
山岳	173	5
自然	182	18
カヌー	100	9
ラフティング	38	6
トレイル ライディング	25	2
計（延べ）	518	51

ガイド実態調査

- ・対象 北海道アウトドアガイド資格保有者351名
に対してアンケート調査を実施
- ・期間 R3.10～12
- ・回答数 177 (回答率 50.4%)

ガイド業の収入実績 (2019)



ヒアリング等

- ・対象 北海道アウトドアガイド資格保有者等179名
- ・期間 R3.10～12

<主な意見>

アウトドア事業全体

- ・人材の確保が困難
- ・客単価を上げること、ガイド自身が自らの価値を高めることが必要
- ・より深く地域に根ざし、ターゲットを絞る常連客などの上質の顧客はお金を惜しまず支払う

A T 対応・振興

- ・簡単なアクティビティであれば片言の英語力で対応できるが、ATガイドは地域の環境やストーリーを語れる英語力が望ましい
- ・ベテランガイドのガイディングを参考にしたい。特にATのスルーガイド研修には興味がある
- ・日本人ではなく、外国人のガイドから学びたい
- ・ガイドや関係者に世界基準のATを感じられる機会の提供 (体験会や海外視察等) を希望

北海道アウトドア資格について

- ・資格を保持していることで旅行会社との契約が円滑に進む
- ・自分の技術を示す唯一の公的な資格である
- ・顧客への認知度向上など、資格自体の価値を高めて欲しい

	旅程管理主任者資格（総合）	旅程管理主任者資格（国内）
概要①	旅行会社が企画するツアーや団体旅行に同行する主任添乗員に取得が義務づけられている資格。研修修了後、下記全てを満たした者が認定証を取得できる。 (1)観光庁長官の登録を受けた機関による旅程管理研修の課程を修了 (2)一定の実務経験（研修の修了前後1年以内に1回以上または研修の修了後3年以内に2回以上）	
概要②	海外の業務が行える者	国内の業務のみ行える者
要件（受験資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社または添乗員派遣会社への在籍 ・全国通訳案内士又は地域通訳案内士 	
研修科目	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業法令及び旅行業約款 ・旅程管理業務（国内旅行実務） ・旅程管理業務（語学） ・旅程管理業務（海外旅行実務） 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業法令及び旅行業約款 ・旅程管理業務（国内旅行実務）
試験方法	4日間の研修+修了テスト	2.5日間の研修+修了テスト
終了基準	研修をすべて受講し、かつ修了テストの成績が基準点（各項目満点の60%以上）に達していること	
エビデンス確認方法	旅程管理主任者証	
有効期間	発行から5年間	

	日本英語検定協会	国際ビジネスコミュニケーション協会
概要	<p>学生から社会人まで幅広い年齢層の受験を想定。 レベルは7つに分けられ、試験問題は、4技能のバランスを重視し、社会で求められる実用英語が出題されている。身の回りの日常会話から、教養を深める社会的な題材まで、実際に英語を使用する場面を想定した内容の試験である。</p>	<p>ビジネスパーソン向けの試験。 英語を用いたコミュニケーション能力を公正公平に評価することを目的とした世界共通の試験。 聞く・読む力を測る TOEIC® Listening & Reading Test と、話す・書く力を測る TOEIC® Speaking & Writing Tests により、4技能（聞く・読む・話す・書く）全ての英語コミュニケーション能力がわかる。</p>
要件（受験資格）	不問	不問
エビデンス確認方法	公式証明書（合格証明書）	公式認定証
有効期間	有効期間なし	有効期間なし ※公式認定証の再発行期限は2年

	サステナブル・ツーリズム国際認証 GSTC公認トレーニングプログラム	Leave No Trace
概要	<p>観光地および観光産業を対象にしたGSTC国際認証制度の基準・指標を理解し、事例をもとに国連世界観光機関(UNWTO)が推奨する持続可能な観光を包括的に学ぶトレーニング。</p> <p>4つの分野（持続可能なマネジメント・社会経済のサステナビリティ・文化的サステナビリティ・環境のサステナビリティ）・合計38項目が設定されている。</p>	<p>環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境行動基準。すべてのテクニックが、7つの原則を基にしており、誰にでもわかりやすく、楽しく実践し、学ぶことができる。</p> <p>90年代に米国で発祥し、政府の土地管理機関と協定を結び、国立公園や州立公園内でのパンフレットへの掲出やレンジャープログラム等に採用され広く浸透している。</p>
コース	-	マスターエデュケーター／トレーナー／ワークショップ
エビデンス確認方法	修了者に授与される修了証	LNT Master Educator（マスターエデュケーターコース受講者）/LNTトレーナー（トレーナーコース受講者）資格
有効期間	-	1年間
その他	希望者はGSTC公式の英文オンラインテスト（教科書・辞書無制限に利用可）を受けて合格するとGSTCの公式修了書が取得可能。	-

	ウィルダネス メディカル アソシエイツ ジャパン			上級救命講習 (消防)	救急法基礎講習 (日本赤十字社)
	WFR	WAFA	WFA		
概要	プロフェッショナルレベル すべての野外で活動される専門家や愛好家のための決定的な総合的な救急法トレーニングコース。	アドバンスレベル ディレクタークラス、登山リーダー、過酷な環境や状況で活躍される方のための包括的な講習。医療アクセスが劣悪な環境で長引く傷病者のケアをカリキュラムに含む。	ベーシックレベル 日帰り旅行や短期の冒険をされる方、災害ボランティアの方などが対象。目の前で発生する事故、災害による傷病者への評価を中心に学習。最も基礎的なコース。	普通救命講習の内容に加え小児・乳児の心肺蘇生法、外傷の手当て、保温法、体位管理法、搬送法を実施し、実技及び筆記試験を含め8時間。	日常生活における事故防止や手当ての基本、胸骨圧迫や人工呼吸の方法、 AED を用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などの知識と技術を習得。
要件 (受験資格)	・WFAの要件に加え、WMA認定による有効期限内のWAFAの保有者	・右に同じ ・WFAベーシックレベル資格の非保有者も受講可能	・16歳以上(20歳未満は保護者の同意が必要) ・野外での実習に参加可能な者	・主催地域在住者 ・原則中学生以上	満15歳以上の者
エビデンス 確認方法	WMA資格証			筆記試験合格で認定証を付与	全課程修了者に受講証、検定合格者に赤十字ベーシックライフサポーター認定証
有効期間	資格取得より3年間有効			発行日から3年間	発行日から5年